

<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>第1号(4月予報)</h2>	<p>令和8年3月25日</p> <p>岐阜県病害虫防除所</p>
-------------------------------------	-----------------------------------

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
麦	赤かび病	栽培地域全域	やや早	やや多
なし	赤星病	栽培地域全域	やや早	平年並
	黒星病	栽培地域全域	やや早	平年並
イチゴ	ハダニ類	栽培地域全域	-	平年並
	うどんこ病	栽培地域全域	-	平年並
施設野菜	灰色かび病	栽培地域全域	-	イチゴ：平年並 トマト：平年並
	コナジラミ類	栽培地域全域	-	イチゴ：やや多 トマト：やや多

(発生時期の-は連続発生)

### 【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

### 【発生予報・根拠・対策等】

#### I 普通作物

##### 1 麦

赤かび病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早	やや多

#### (1) 予報の根拠

- ア 麦の生育は、やや早かった（+）。
- イ 前年度の発生量は、平年並みであった（±）。
- ウ 向こう1ヶ月（3/21～4/20）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は平年並から多い（±～+）と予想される。

#### (2) 防除上注意すべき事項

- ア 各ほ場の生育進度は、は種時期により異なるため、生育状況を良く確認し、防除適期である開花始めとその10日後の2回防除を確実に実施する。
- イ 開花から10日間は特に感染しやすく、開花期～乳熟期に多雨、曇天が続くと多発しやすいため注意する。  
 ※病害虫図鑑「赤かび病について」も参考にしてください。

#### II 果樹等作物

##### 1 なし

赤星病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早<4月第3半旬>	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、早かった (+)。
  - イ 前年の発生量は、岐阜・西濃地域でやや多く (+)、中濃地域で少なかった (-)。
  - ウ 向こう1ヶ月 (3/21~4/20) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並から多い (±~+) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 展葉期から開花終期頃までの降雨により胞子が多く飛散するため、この間は降雨前に予防的防除を実施する。
  - イ 早くから気温が高く、上記期間の降雨が多い年に発生が多くなるため注意する。  
※病害虫図鑑「なし赤星病について」も参考にしてください。

黒星病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	やや早<4月第5半旬>	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア 発芽期は、早かった (+)。
  - イ 前年の秋期発生量は、少なかった (-)。
  - ウ 向こう1ヶ月 (3/21~4/20) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並から多い (±~+) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 開花直前から開花後約2週間 (受粉終了直後) までに降雨が多いと発病が増加するため注意する。
  - イ 栽培暦に従い、適期防除を実施する。  
※病害虫図鑑「なし黒星病について」も参考にしてください。

### III 野菜

#### 1 イチゴ

ハダニ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での寄生株率は、岐阜・西濃で低く (-)、中濃地域で平年並みであった (±)。
  - イ 向こう1ヶ月 (3/21~4/20) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並から多い (±~-) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、葉裏によくかかるように散布する。
  - イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。  
※病害虫図鑑「イチゴ ハダニ類について」も参考にしてください。

うどんこ病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

- (1) 予報の根拠
- ア ほ場での発病株率は、低かった (-)。
  - イ 向こう1ヶ月 (3/21~4/20) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並から多い (±~+) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏までよくかかるように散布する。  
※病害虫図鑑「イチゴ うどんこ病について」も参考にしてください。

## 2 施設野菜

	対象地域	発生量
灰色かび病	栽培地域全域	イチゴ：平年並 トマト：平年並

### (1) 予報の根拠

- ア イチゴにおける発病果率は低かった(－)。トマトにおける発病株率、発病果率ともに低かった(－)。
- イ 今後気温の上昇に伴い、暖房機の運転時間が少なくなることで、施設内の空気の動きも悪くなり、早朝時等の濡れ時間が増加する(＋)と予想される。
- ウ 向こう1ヶ月(3/21～4/20)の気象予報によれば、気温は高く(＋)、降水量は平年並から多い(±～＋)と予想される。

### (2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。
- イ トマトでは葉先枯れや花がら、イチゴでは収穫後の果梗などの枯死部位が発生源となるため、早めに取り除き処分する。  
※病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」も参考にしてください。

	対象地域	発生量
コナジラミ類	栽培地域全域	イチゴ：やや多 トマト：やや多

### (1) 予報の根拠

- ア ほ場での発生量は、施設トマト内における黄色粘着板での誘殺数はやや少ない(－)。イチゴにおける寄生株率は、岐阜・西濃地域で高く(＋)、中濃地域で低かった(－)。
- イ 向こう1ヶ月(3/21～4/20)の気象予報によれば、気温は高く(＋)、降水量は平年並から多い(±～－)と予想される。

### (2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏によくかかるように散布する。
- イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。  
※病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」も参考にしてください。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

[参考資料 1]

**【3月の調査における病害虫発生量】**

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：3月	
		岐阜・西濃地域	中濃地域
イチゴ	ハダニ類	少	平年並
	うどんこ病	少	少
施設野菜	灰色かび病	イチゴ：少	イチゴ：少
		トマト：少	-
	コナジラミ類	イチゴ：多	イチゴ：少
		トマト：やや少 キュウリ：少	- キュウリ：少

[参考資料 2]

**【東海地方1か月気象予報】**（抜粋）—名古屋地方気象台 令和8年3月19日発表—

向こう1か月の天候の見通し 東海地方（3/21～4/20）

- ・天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は平年並の確率40%、多い確率40%です。日照時間の少ない確率は50%です。

[参考資料 3]

**【用語の基準と使用法】**

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。  
やや早 平年値より3～5日早い。  
やや遅 平年値より3～5日遅い。  
早 平年値より6日以上早い。  
遅 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。  
やや多 平年値より、その値が21～40%多い。  
やや少 平年値より、その値が21～40%少ない。  
多 平年値より、その値が41%以上多い。  
少 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。